


## 沖縄国際大学 平成 25 年度 F D 支援プログラム成果報告書

下記内容により、F D 支援プログラムの取り組みが完了いたしましたので、「F D 支援プログラム成果報告書」にて、ご報告いたします。

|           |  |   |       |            |
|-----------|--|---|-------|------------|
| 報告者氏名     | 比嘉 昌哉  |  | 所属・職名 | 人間福祉学科 准教授 |
| プログラム名称   | 1 年次のボランティア活動促進プログラム<br>～基礎演習と福祉・ボランティア支援室との協働を通して～  |   |       |            |
| 実施及び成果の要旨 | <p>1. 実施内容</p> <p>後期に開講される「基礎演習」のテーマのひとつにボランティア活動を位置づけた。演習の時間には、主にボランティアの歴史、現代的意義を中心に講義をして基礎知識を提供した。</p> <p>また、福祉・ボランティア支援室を気軽に利用できるよう情報提供をした。新入生は先輩がたくさんいる場だと入室するのをためらってしまうという声があったので、むしろ先輩がたくさんいる所に飛び込むことがおもしろいということを繰り返し説明した。</p> <p>これらを踏まえて、10 月から毎月 1 回開催された福祉・ボランティア支援室主催のボランティア講座にゼミで参加した。また、それぞれが講座で得たことを共有する作業を演習時間に実施した。</p> <p>2. 成果</p> <p>基礎演習の学生がボランティア活動に積極的に関わることを促進する上で、福祉・ボランティア支援室との連携は有効であることがわかった。根拠はアンケート結果から見えてくるのだが、ボランティアに対する意識が強化されたこと、また、福祉・ボランティア支援室に自分から訪問するようになったことがポイントと言える。</p> <p>しかし、モチベーションを維持するためには、いくつかの課題があることもわかった。支援室に届くボランティアの依頼内容が学生の学生と合わない場合、いつの間にか足が遠のいてしまうようだ。ボランティアは自発的な活動なので自らアクションを起こすことが原則である。しかし、支援室から継続的に情報を提供する仕組みがあればモチベーションを下げることはないのではないかと考えた。</p> <p>(福祉・ボランティア支援室では、今年度から、登録学生への情報提供を昨年度よりも頻度を上げて、また、内容を抱負にして実施することになった。)</p> |   |       |            |
| 実施期間      | 自 : 2012 年 10 月 1 日<br>至 : 2013 年 2 月 17 日   |   |       |            |

※共同実施者 (2 人以上の場合は、別紙添付のこと)

|       |   |       |  |
|-------|---|-------|--|
| 申請者氏名 | 印 | 所属・職名 |  |
| 申請者氏名 | 印 | 所属・職名 |  |

|          |  |
|----------|--|
| 目的       | ボランティアに関心はあるが様々な理由で活動に参加することを躊躇してしまう学生が多い。そこで、1年次演習科目（基礎演習）と福祉・ボランティア支援室が連携し、ボランティア活動への関心や参加意欲を高めるプログラムを作成する。  |
| 活動内容     | <p>① ボランティア支援室と基礎演習担当教員とで学生の状況を共有する。また、学生有志とワークショップを行い、ボランティア活動に関心はあるが躊躇している学生のニーズを明らかにする。</p> <p>② ボランティア支援室と担当教員が協働で講座を企画する。具体的には、ボランティア活動の魅力を伝える講座や、ボランティアに関する基礎知識を楽しく学ぶ講座など、これからボランティア活動に参加してみたい学生のニーズに応える講座とする。講座は全学学生を対象とする。</p> <p>③ ゼミの学生には②の講座に参加してもらう。その上で、演習の時間に振り返りを行う。</p>  |
| 成果・結果・効果 | <p>1年次学生（基礎演習学生）がボランティア活動に積極的に関わることを促進する上で、福祉・ボランティア支援室との連携は有効であることがわかった。本プログラムを通して、福祉・ボランティア支援室に自分から訪問するようになるなど、ボランティアに対する意識が強化されたようだ。また、学生によっては他学科の学生を誘って一緒にボランティア活動をし始める学生もいた。</p> <p>しかし、モチベーションを維持するためには、いくつかの課題があることもわかった。支援室に届くボランティアの依頼内容が学生の学生と合わない場合、いつの間にかボランティア活動から足が遠のいてしまうようだ。大学に届く依頼内容だけを紹介するのではなく、支援室の方から地域ニーズとつながるなどアクションも起こすことも必要だと考えた。また、ボランティアをする時間を確保できない学生がいることから、ボランティア依頼情報だけでなくボランティアを日々の生活にどのように取り入れたらいいかといったメッセージを送るという方法も必要ではないかと考えた。ボランティアは自発的な活動なので自らアクションを起こすことが原則である。しかし、支援室から継続的に情報を提供する仕組みがあればモチベーションを下げることはないのではないかと考えた。</p> |
| 今後の展望    | <p>次年度も福祉・ボランティア支援室と連携し、1年次学生がボランティア活動に積極的に参加できる仕組みを模索していきたい。</p>  |